

●表1 認知症の主な種類と症状など

区分	アルツハイマー型認知症	脳血管性認知症	レビー小体型認知症
脳の変化	海馬(記憶を司る脳の部位)を中心に脳の萎縮が見られる	脳梗塞や脳出血などにより、脳の一部が壊死する	「レビー小体」という物質ができることで、神経細胞が死滅してしまう
初期の症状	物忘れ	物忘れ	幻想、妄想、うつ状態、パーキンソン症状など
特徴的な症状	物忘れ、物盗られ妄想、徘徊など	手足のしびれ・まひ、感情のコントロールがうまくいかないなど	幻想、妄想、うつ状態、自律神経症状、パーキンソン症状など
経過	記憶障害から始まり、広範囲な症状へと徐々に進行する	原因となる疾患によって異なるが、病気の発症により急速に進行する	調子の良いときと悪いときを繰り返しながら進行する

●表2 認知症と加齢による物忘れの違い

認知症による物忘れ	
●忘れていたことを自覚できない ●ヒントがあっても思い出せない ●季節や日時が分からない	日常生活に支障が出る
加齢(年相応)による物忘れ	
●出来事の一部を忘れる ●ヒントがあると思い出せる ●日付や曜日を間違えることがある	日常生活に大きな支障はない

本人のできる範囲で家庭内の役割を担うことや、家族が

認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を手助けする「認知症サポーター」や、認知症の人や家族・専門家と交流できる「認知症カフェ」などを活用し、身近な人や専門家に相談することも大切です。高齢者の身近な相談窓口である表3の地域包括支援センターや長寿福祉課にも、お気軽にご相談ください。

独りで悩まず相談を

●表3 市内の地域包括支援センター

お住まいの地区	担当	電話番号
須賀川・浜田	須賀川中央地域包括支援センター	(88)8215
西袋・稲田・仁井田	須賀川西部地域包括支援センター	(75)3222
小塩江・大東	須賀川東部地域包括支援センター	(79)1551
長沼・岩瀬	須賀川長沼・岩瀬地域包括支援センター	(67)3113

認知症を予防するには

また、認知症は早期の治療により症状の進行を遅らせた

早期発見・早期治療が大切

「認知症かな？」と気付くきっかけの症状に「物忘れ」があります。

認知症について理解を深める

認知症になっても安心して暮らしていくために

長寿福祉課 ☎(88)8116



「認知症になったら、このまま暮らしていけるだろうか」と考えたことはありますか？

認知症とは

様々な脳の病気により、脳の神経細胞の働きが徐々に低下し、認知機能(記憶や判断力などが低下していくことで、日常生活に支障が出る状態のことです。

高齢者の6人に1人が認知症

平成26年度の「日本における認知症高齢者人口の将来推計に関する研究」によると、令和2年の65歳以上の高齢者のうち認知症の有病率は17.5%で、約6人に1人が認知症であると推計されており、令和7年には20%まで増加すると見込まれ、誰がなっても

おかしくない身近な病気であることが分かります(右の図のとおり)。

市内の65歳以上の高齢者は、令和5年10月1日時点では、2万2154人であり、認知症有病者が6人に1人とする、3692人が認知症と推計されます。

認知症の種類と症状

脳は部位により機能が異なるため、障がいが起きた箇所によって症状も異なります。認知症は、脳の神経細胞が萎縮する「アルツハイマー型認知症」が最も多く、次いで、脳の血管が詰まることで起こる「脳血管性認知症」、脳の神経細胞に特異な物質が出現する「レビー小体型認知症」などが代表的で、症状や経過もそれぞれ異なります(表1のとおり)。

●65歳以上の認知症高齢者将来推計

